

しんどさ…寄り添い共感したい

守る

北陸中日新聞・石川テレビ放送
共同企画

第4部 家族

自分の子どもに障害があると分かって、それを受け入れられないしんどい時期に、気持ちを分かってくれる人が欲しかった。そんな時、ペアレントメンターの存在を知りました。ペアレントメンターに会いたい、また、いつか自分もそういう人になっしていきたいな、と思いました。

ペアレントメンター 直居麻衣子さん



自宅リビングでくつろぐ直居麻衣子さん
と長女の理央さん＝金沢市浅野本町で

大変さを、同じ境遇の親御さんに共感してもらえれば心は救われる。分かってもらえる強さは計り知れません。

大変さを、同じ境遇の親御さんに共感してもらえれば心は救われる。分かってもらえる強さは計り知れません。徹底的に傾聴し、共感するのが、ペアレントメンターです。「しんどい」とか悩みを、同じ

「しんどい」とか悩みを、同じ

「すまいる・すまいる」といっても来てほしい。

また、発達障害を、もっと知ってもらいたい。一般に言われる問題行動も、結果だけを見るのではなく、そうしてしまう根本に目を向けてもらえたら。それはその子の目線に立つことで、障害の有無は関係ない。

子どもが障害があって生まれてきたからこそ、子ども目線で見られるようになりました。かっとして、ついつい怒っちゃう時もあるけれど、人間的に成長させてもらっています。

この人はそうなんだって認め合えるかどうかだと思う。「これがこの人の普通」とみんなが受け入れてくれればそれは障害ではない。押しつけるわけではありません。理解してほしいです。

(村松秀規)

なおい・まいこ 発達障害と自閉症がある長女理央さん(10)、発達障害がある長男友喜君(8)、次女未紗希ちゃん(5)を育てる。金沢市浅野町児童館で「すまいる・すまいる」を主催。毎月第2水曜日午前10時～正午。8月のみ3日午後1～3時。予約不要、参加費100円。浅野町児童館 076(252)5664

同じ境遇の親 支援「ペアレントメンター」

子の発達障害 悩み話せる



発達障害がある子を育てた経験を踏まえ、同じ境遇の親の相談に乗る「ペアレントメンター」。今年3月末現在、石川県内には50人いる。当事者として、同じように悩みを抱え、つらい思いをしている家族の笑顔を守る。(村松秀規)

第4部 家族

毎月第二水曜日に開かれている集い「すまいる・すまいる」。ペアレントメンターの直居麻衣子さん(画)と金沢市浅野本町Ⅱが昨年十一月から始め、発達障害がある子の親たちが浅野町児童館で悩みなどを話す。

守る

北陸中日新聞・石川テレビ放送 共同企画

以前、東京で暮らしていた時、直居さんには「気軽に相談できる場所がなかった」。だから、二年前に故郷の石川県に戻った際、ペアレントメンターになると決めた。「自分もしんどい気持ちを分かってくれる人が欲しかった。つらい、しんどいと思ったら、すまいる・すまいるに来て」

がると疎まれるんじゃないですか」と口にした。小学五年の長男は注意欠陥多動性障害(ADHD)。落ち着きがない、衝動的な行動を取るといった特徴がある。

直居さんらは話に耳を傾けるが、肯定も否定もしない。自身の子育て経験などを話しながら、ただ、共感する。杉山さんは「当事者同士でない」と分かり合えないことがある。話せる場所があるだけで気持ち軽くなる」と感謝した。

ペアレントメンターは何らかの解決策を提示するような存在ではない。「『しんどい』や悩みに共感できる同じ境遇の親です」と直居さんは言う。自身も発達障害の長女理央さん(10)、長男友喜君(6)を育てる。

子育てに関する悩みを話し合う直居麻衣子さん(左から3人目)ら。金沢市浅野町児童館で

石川テレビで今夕特集

北陸中日新聞は石川テレビ放送と「守る」という言葉をもとに取材し、共同報道企画「守る」を隔週で、連載しています。石川テレビの特集は25日午後6時38分ごろからの「Live News it!」で放送します。=インタビュー⑩面

ペアレントメンターになれるのは、発達障害がある子を育てた経験がある人。国の資格ではないが、厚生労働省が養成の支援をしており、自治体に補助金を出している。石川県内では、県委託の「発達障害者支援センター パース」(金沢市)で障害の知識、相談の受け方などを学ぶ研修を修了すれば県に登録できる。

問い合わせはパース＝メール info@center-path.com へ。